

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

直東学園ニュース

直江津東中学校区すこやかネットワークだより

令和3年度 第4号
令和3年9月25日発行
＜発行・編集＞
直東学園 事務局
〒942-0041
新潟県上越市安江 282-1
(上越市立直江津東中学校内)
TEL : 025-543-2729
FAX : 025-543-4150
E-mail : higashi-cs@jorne.or.jp

直東学園 学力向上一斉研修会

直東学園では、小中学校の9年間を見通した確かな学力育成のため、第2号でお知らせしたように6つの取組を進めています。本号は6月に行った「中学校区一斉研修会」についてお伝えします。

直東学園では授業力向上のため、教員が一堂に会し毎年研修会を行っています。研修会は「講演会」と「各教科・領域部会」を隔年で実施しています。今年度は「各教科・領域部会」の年に当たります。新学習指導要領は小学校が前年度から、中学校は今年度から全面实施となりました。また中央教育審議会では『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』という答申の中で「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を打ち出しました。そして、この答申にもある「GIGA スクール」構想が前倒しになったことにより、児童生徒1人1台のタブレット端末が配備され、ICTを活用した教育の質の向上が求められています。このような教育の変革や流れを踏まえ、今回は「NRT 学力検査結果から見えること」、「個別最適な学びと協働的な学びをどう実現させるか」というテーマで各校の情報交換を行いました。

NRT 学力検査の結果から直東中校区で重点とすべき領域

国語：「話す・聞く」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

算数、数学：「数と計算」、「数式」

ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びについて

<タブレット端末（iPad）の活用状況>

- ・カメラや録画機能により様々な学習での記録と保存ができる。またノートや実物などをスクリーンに投影できる。理科や体育などでは動画による動きや様子の確認、観察ができる。
- ・GoogleClassroom を使って朝の連絡や係の仕事報告、健康観察を行っている。
- ・GoogleForm で学習の振り返りを行い、アンケート集計を提示したり評価に役立てたりする。
- ・GoogleMeet で一か所に集まらなくても校内会議を行える。

<活用上の課題>

- ・職員用のタブレット端末が全員分ない。
- ・タブレット活用の習熟度による学校間、職員間の利用格差がある。
- ・検索機能が制限されたりアプリが少なかったりするために使い勝手が十分ではない。
- ・モニターやスクリーンがどの教室にもないと、クラス全員で共有できない。
- ・wi-fi 環境のない場所がある。また環境が不安定でインターネットを利用できないことがある。



現在では動画視聴の制限が緩和されたり校内で wi-fi を利用できる場所も広がったりしてきています。ICT を効果的に活用することで、個別の学習効果が上がり、学級での学び合いがさらに深まるよう、今回の情報交換を基にして各校で授業改善を進めていきます。

北諏訪小学校の取組

○研究主題「各教科の『見方・考え方』を働かせ、学ぶ意欲を高める授業づくり～『問い』が生まれる課題と学習活動の工夫～」

「問い」が生まれる課題の設定を研究主題にして3年目となりました。今年度はさらに、思考力・判断力・表現力を高めて学ぶ意欲をより引き出すため、以下の2点を研究の視点に加えました。

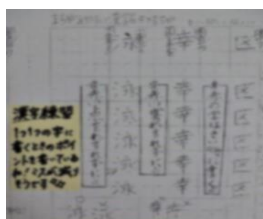
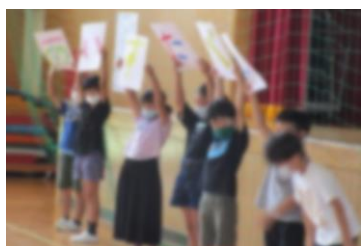
- ・各教科の見方・考え方を働かせる学習活動の設定
- ・学びの自覚化を図るための振り返り時間確保



これらを意識して日々の授業に取り組むだけでなく、全職員が年に1回授業公開をすることで、授業力の向上を図っています。

○学力向上の具体的取組

- ①全校漢字・計算テストを実施することで、基礎学力の定着を図ります。
- ②ペアトークやグループ活動など、伝え合う場を設ける工夫をしています。
- ③表現を豊かにするための活動
 - ・朝の会や家庭学習で音読を実施しています。その成果を音読朝会で発表します。
 - ・行事の前後等には、統一シートによる書く活動を継続しています。
- ④家庭学習の充実
 - ・学年に応じた家庭学習の内容とやり方の紹介をしています。(学年×10分の家庭学習)
 - ・お手本になるような工夫された自主学習ノートを掲示しています。
 - ・各学期始めに直東学園「スタディー&アウトメディアウィーク」を実施しています。



【自主学習ノート】

保倉小学校の取組

今年度の研究主題を「問いを生み出し、学び続ける子の育成」とし、子ども自身が学ぶことを楽しむ姿を目指しています。そのために以下の取組を行っています。

○授業改善

①問いを生み出す授業

児童の素朴な「どうして～なのだろう」「どうやったら…だろう」などの問いを大切にし、授業づくりをしています。児童自身が問うことのできる仕掛けを組んだり、安心して問うことのできる環境を整えたりすることで、児童がのびのびと学習できるようになってきています。

②対話

昨年度から大切にしていた「自己内対話」や「他者との対話」の双方を充実させることを継続しています。1学期は相手の話を聞くことに重点を置き、指導しました。友達の話から自分の考えを深める児童の姿が生まれています。



○授業研修

月に1回授業研修を行っています。全職員で授業を参観し、指導や児童の様子について協議しています。様々な教科の見方・考え方を養っていくために、今年度は、教科は自由としました。研修で得た知識を日常の授業でも生かしています。



○ちょい研の実施

2学期以降、希望制の研修「ちょい研」を設定します。タブレットの操作研修や、ミニネタ、体育の指導技術などを伝え合う予定です。職員同士で学び合い、授業力を高め、子ども自身が学ぶことを楽しむことができるように取り組んでいきます。

有田小学校の取組

「社会性の育成」を中心課題に据え、実践を重ねています。ここでいう社会性とは、以下の3つに焦点化しています。

①人とのあたたかなかかわり方の育成

(異学年や地域の人との交流、人間関係づくり、他に受け入れられる判断や行動)

②規範意識や基本的生活習慣の育成

(自主・自立)

③自己有用感

(集団の中で役立っている)



そのために、以下の2つを柱に研究を進めています。

○授業における社会性 ～公開授業研究～

授業で育てたい社会性を明確にし、それを達成するための手立てについて考えます。すべての子どもが分かるように授業のユニバーサルデザイン化を意識したり、日々の学級経営で高め合う集団づくりに取り組んだりしています。

また、指導案を作成した公開授業に全職員が取り組むことで、一人一人の授業力向上にもつなげます。

○特別活動における社会性 ～全校SST～

3年目となる全校ソーシャルスキル集会「ありペン・たーペン心の時間」で、あたたかいかわり方や望ましい言動を学びます。

縦割り班活動では、一人一人が役割をもち、班のために役立つことで自己有用感を高められるように活動内容を工夫したり、活動後の振り返りで自分と友達との関わりに目を向けられるように促したりします。全校SSTで学んだことを実践する機会にもなっています。



春日新田小学校の取組

当校は、今年度も「認め合い進んで学び合う子の育成～ステーション授業構想による集団づくり～」をテーマに研修を進めています。

○<かかわり方スキル>を活用した交流型学習形態の授業作り

研究主題に迫るために、<かかわり方スキル>を使った交流学習の場を意図的に設定して、授業づくりを行っています。6つのかかわり方スキルの中から、ターゲットスキルを提示し、スキルを使った後には、必ず児童のよさをフィードバックし価値付けるようにしています。

また、全職員が参加する公開授業研究・協議会を行い、かかわり方スキルを用いることで児童の思考が深まったり、教科の課題を解決したりすることができていたかを協議しています。児童の学びを確かなものにするとともに、教師の授業改善につなげます。



【6年生の公開授業でのグループ活動の様子】

○学力テストや、各単元テストの分析

NRT 学力テストや、学習指導改善調査の分析を全職員で行い、児童の苦手を把握し2学期以降の重点単元を設定しました。また、各単元で学年平均を割り出し、落ち込んでいる学習の補充学習をしたり次の指導に生かしたりしています。

○「スタディー＆アウトメディアウィーク」の実施

年に3回実施しています。学年×10分の学習時間や、メディア2時間以内が達成できるように、一人一人がめあてを立てて取り組んでいます。各学年で、継続して自主学習ノートの掲示を行っているため、自主学習への意欲も高まっています。今後は、メディアの中でも特に、ゲーム時間を意識できるようにしていきます。

○ICT 活用のミニ職員研修 (ちょこっと Google)の実施

ICT をより効果的に活用できるように、情報指導部が中心となり、定期的にミニ研修会を実施しています。iPad の基本的な操作から、授業場面での活用の仕方などを研修して、授業で活用しています。



【iPad を活用した授業実践】

直江津東中学校の取組

令和3年度の直江津東中学校は、次の3つの目標の達成を目指して頑張ります。

○1つ目は意欲的に学ぼうとする集団づくりです。

現在の東中は落ち着いて授業に取り組んでいます。その基盤となっているのは、生徒同士、生徒と教員、教員同士のよりよい人間関係づくりです。行事や毎日の生活の中で、互いに認め合う場面を作り、つながる場面を意図的に仕組んでいくことで、少しずつ大事に育ててきました。校内では、「アセス」という学校適応感を調べるアンケートを行い、その結果をもとに、一人一人の生徒の様子を見取り、指導に活かしています。

○2つ目は「学び合い」のある授業づくりです。

新しい生活様式を意識させて、自分の考えをもち、仲間と意見を交わし合い、より深い学びを目指しています。

また、今年度から1人1台のタブレットを利用して理解を深めています。



○3つ目は家庭学習・自主学習の習慣づくりです。

今年度は学区全体での取組「アウトメディア」に挑戦しています。学習委員会がリードして、定期テストの学習時間を増やす呼びかけに加えて、ゲームやスマホを使う時間を減らそうとキャンペーンを行っています。クラスごとに学習時間とメディア時間の合計を記録、掲示し、定期テストに向けて、学習時間とメディア時間の変化を意識して取り組んでいます。

ゲームやスマホの使用時間については、日ごろの使い方のルールが大切になります。日常的に使っていると、いざ「学習しよう」というときになっても、なかなか手放せません。使い方のマナーとともに使用時間やルールについてもご家庭で考えていただけるとありがたいです。

7月31日(土)

東中に先輩が！！

1学年 ようこそ先輩！

直江津東中学校を卒業した10名の社会人の方々を講師に招き、職業についてのお話をしていただきました。1年生は小グループに分かれ、「歯科助手」、「保育士」、「製造業」、「消防士」など様々な職業についての話を熱心に聞き、自分の将来について考えました。

生徒からは、「職業についての話を聞くことができてよかった。」「将来のことを考えるきっかけになった。」といった感想がありました。今回の講話を通して、自分の将来について考え、未来を切り開く力が学校や地域の中で身に付いていくことを願っています。



3学年 卒業生に話を聞く

9名の高校生から各学校の紹介をしていただきました。

「資格を取ると就職に有利」、「勉強するときはスマホを手元に置かない」、「39点以下は赤点」、「友達と食べるお昼は楽しい」など、各学校の特徴や受験勉強の心得や高校生活の楽しさなどを話してくれました。

話を聞いた後の3年生は、これから高校受験や将来を見据えて、これからの中学校生活を充実させてほしいです。

